「千の風」絵本に刻む

丹波の仏版画家・観瀾斎さん

「9.11」鎮魂　米でも評判

丹波市市島町北岡にアトリエを構える仏版画家の観瀾斎さん(61)が、大ヒット曲になっている「千の風になって」の原詩を題材にした絵本「観瀾斎の千の風に」をオークラ出版(東京)から出した。詩人観瀾斎さんの神髄にふれることが出来るのきっかけとなったという。米国・ニューヨークでも発刊され、「9・11」に向け、鎮魂の絵本として話題を呼んでいる。国内では9月1日に全国書店で発刊された。

観瀾斎さんは京都府綾部市出身。能を始めとして、鉄道の仏画世界を築いてきた。最近では、関西花の寺20カ所のご本尊絵画制作(20年)や高野山真言宗総本山・金剛峰寺(三十八番札所・成就寺)の襖絵制作(18年)のほか、観音堂・ディームなどの仏画を制作してきた。

「観瀾斎の千の風に」は、出版関係の知人から依頼され、1カ月から取り組んだ。原詩は作家不詳で1980年ごろ英国にアメリカの家庭婦人によって生まれ、今も世界各地で唱われ、歌い継がれてきたという。絵本は英訳・ラ版の絵に詩をつけ、英語訳を挿入した。定価は2100円(税込み)。

企画・監修したアトリエ・ドゥ・ボワ代表で観瀾斎の家族関係者である仲村さんは「この絵本はたくさんの人から送られたメッセージです。天からのメッセージに静かに耳を傾ける、魂に響いてほしい」と熱心に取り組んだと話ている。

観瀾斎さんは「この絵本を見て、若者のハートが少しでも癒しみから癒されるのであればとの願いを込めて書らせていただいた。私の集大成だ」と話している。

10月1日～11月25日、京都・東寺で観瀾斎作品展が開かれる。

観瀾斎さんが「千の風に」を刻んだ絵本を手に丹波市市島町北岡で

丹波　三田

朝日新聞掲載　9月1日